



茨城県平和委員会30周年記念式典・レセプション

～ 平和の文化を育てよう ～



「30周年記念式典」が5月13日(土)午後1時から、みまつホテル(水戸市宮町)で開催されました。第3回常任理事会(3/18)で日程等を確認し、式典案内等の準備は短期間でしたが、当日は30人を超える招待者をお迎えすることが出来ました。

各地域の平和の会・平和委員会、また新聞意見広告に賛同金を寄せられた団体、憲法フェスティバル実行委員会加入団体等幅広く案内を差し上げていました。「30周年誠にありがとうございます。平和の『種』をまき続けるご活動に心より敬意を表します。これからも貴団体の活動にご一緒させて下さい」(茨城県医労連)など祝辞と連帯のメッセージも数多く届きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

■30周年記念誌を、相沢静男編集長が披露!

30周年を記念するために地道に編集作業を続けていた「記念誌～平和の文化を育てよう～」も2年がかりで完成し、出席されたみなさんに手渡すことが出来ました。前回の記録集は1991年の再再建から20年目、今回はその後10年間を取り上げました。相沢静男編集長がパワーポイントを使って、13テーマ・20ページに及ぶ内容を魅力的に語りました。「戦争と平和」パネル展の歴史、百里基地の闘い、新聞意見広告の歴史など、圧巻でした。

■祝辞と思い出が披露される

来賓あいさつの最初に、田中重博茨城県革新懇代表。田中先生は、県平和委員会は「多彩な活動をしてきた」「仲間づくりを常に重視してきた」「ワインの販売、意見広告で事業収入を上げるなど商売上手」などの祝辞を頂きました。



谷萩陽一先生は、この3点に加え「飯田美弥子弁護士を代表理事にするなど平和委員会は人材活用センターになっている」とユーモアも。

伊達郷右衛門さんは、「再再建からの思い出」を語りました。話が長くなるからと、「結成当時からみんなで話し

合ってきた事」というプリントを準備され、受付で式典プログラムとセットで来場者に渡しました。伊達さんは、「みなさんと30年間一緒に運動してこられた事に感謝申し上げます」と述べ、「利益集団ではない平和委員会の運動は心のふれあいと信頼関係を築く事」「茨城の平和運動の宝である百里基地反対闘争に協力してきた事」ができたかと締めくくりました。



■今後の闘いに身の引き締まる思い

岸田内閣は、「安保3文書」実現のために、23年度から5年間で43兆円もの軍事費を使い、10年間で自衛隊施設の強靱化、全国130か所に弾薬庫をつくる、愛国心や国民の「決意」を促す環境を「政府が」整えようとしています。

今年度以降の10年間は、まさに「戦争か平和」かが問われる激動の時代です。これまで以上に各地域から、草の根から反戦平和を訴え、市民と野党の再結集を促し、立憲主義を回復しなければならないと身の引き締まる思いをしました。

■「がんばろう」を大合唱

終了最後のステージは、センター合唱団の大名章文さんによるアコーディオン、羽鳥茂さんの歌唱指導によって「がんばろう」などを大合唱しました。閉会あいさつは木村泉代表理事がおこない、2時間余の式典が和やかに終了しました。新型コロナ感染症により延期していた式典を2年越しに実現させ、代表理事及び事務局員一同、肩の荷をおろすことが出来ました。

▼川崎敏明さん(国民救援会)



▼新婦人の会



▼参加者の面々



▼センター合唱団と神原要事務局次長



「(編集部) 広島G7にて核兵器の“絶対悪”どころか抑止力として認める内容が「広島」の名において発表された。最悪だ。被曝者だけでなく平和を願う世界中の人々に対して「裏切りのピジョン」として後世に残るだろう。」

(はみだしコラム)

ロシアのウクライナ侵略抗議 37回目のスタンディング!

＜茨城県平和委員会＞

水戸駅南口を舞台に 高校生たちとも交流!

5月24日(水)、ロシアによるウクライナ侵略停止、ロシア軍の即時撤退を訴え37回目のスタンディングをおこないました。水戸駅南口の正午、11人が集い、ハンドマイクを握る人、「大軍拡・大増税」反対署名をお願いする人、そのチラシを手渡す人、静かにスタンディングする人など思い思いのスタイルで行動しました。少し汗ばむくらいの五月晴れでした。

この日は中間テスト(?)が午前中に終わったのか、県立、私立問わず制服姿の高校生たちがたくさん行き交っていました。新婦人水戸支部の会員の方と雑談にに応じていた男子高校生に「何か一言しゃべってみる」と話しかけると、「いいですよ」と。彼の友人たちも興味津々。名前を尋ねると、「長島です。18歳。」と答えてくれました。そして「人前で話すのは初めてですが、一言いいですか」と、話し始めました。「同じ高校生にも聞いてもらいたい。政治について、一言で言って、日本は良くない方向にいつている。18歳に

なれば選挙権が持てる。自分の考えを言うことが出来る。選挙についてしっかり考えて、日本を良くしなければ。自分は関係ないと思っているかもしれないが、自分はそう思わない。政治活動に参加して、もっ

といい社会にしましょう」。数人の女子高校生が立ち止まり、通行人も驚いたようにふり返りました。スタンディング参



発言する
高校生

加者と彼の友人たちが拍手を送りました。彼のスピーチの後、記念写真の承諾と「平和かわら版」掲載の許可を得て、シャッターを切りました。

定期大会にオブザーバー参加を!

各平和の会、平和委員会は代議員の選出をお願いします。今年度は、「戦争の準備」を拒否し、「平和の準備」を草の根からすすめるための方針を確定する大会になります。あらためて、**会員のみなさんにオブザーバー参加を呼びかけます。**

「改憲阻止総がかり行動」のお知らせ

国会では憲法に違反する「軍事費財源確保法案」「軍需産業支援法案」が審議されるなど岸田政権が暴走しています。以下の日程で改憲阻止総がかり行動を開催します。ぜひご参加ください。

- 日程 6月14日(水) 17:30~19:00 集会&デモ行進
- 場所 水戸駅北口デッキ

県平和委員会 第3回理事会の発言など(抜粋)

第3回理事会が5月13日(土)、水戸共同ビルで開催されました。引き続き、出席者の主な発言要旨を報告します。

■近藤輝男代表理事は、「岸田政権が『安保3文書』の実現に向けて軍事費財源確保法案など憲法違反の悪法を次々と成立させようとしている。まさに県平和委員会の出番だ。大会の成功に向けて議論し、知恵を出し合いましょう」と開会あいさつしました。

「情勢」では、米「タイム誌」が、「岸田氏は十数年にわたる平和主義を放棄し、日本を真の軍事大国にしたいと望んでいる」と紹介したことを受けて、この核心を突いた表現を、街頭などで大いに宣伝し、安保3文書の撤回を求めようと強調しました。東海第二原発再稼働について賛否を問う「県民投票条例」再請求のための署名集約について積極的に検討しなければならない、と説明。

県平和委員会も会員の高齢化がすすみ、毎年25人程度が退会、15人前後の新会員を迎えています。世代継承を絶えず追及し、平和運動を草の根から広げましょう、と挨拶しました。

■百里平和委員会の梅沢優さんは、「百里基地も強靱化計画によって『司令部が地下化』されようとしている。土地利用規制法は全国で161か所区域指定されているが、百里も来年、指定されるだろう。東京にNATO事務所が開設されようとしているなどきな臭い話がどんどん出ている」と、戦争国家に向かっている危険な状況を報告しました。

■東海村平和委員会の川崎勝男さんは、「毎月11日、東海駅東口で

再稼働反対のリレートークをしている。通行人は多くないが、約10人で次々と話し、どれだけ影響があるか分からないが、1時間トークする。再稼働賛成派の議員は12人、反対は4人。東海村議会に推進派の教授を呼んで公聴会を開いたが、再稼働に反対する議員の質問に答えられないというお粗末さだ。実効性ある避難計画は出来ていない」と告発しました。

■おおみや平和の会の相沢静男さんは、「自治体に対し、自衛隊員募集への協力要請が強められている。武器があっても人がいなければ組織は動かないので、やっきになって、自衛隊員を募集している。常陸大宮市では危機管理課が卒業生名簿を提出していることが分かったが、何のために提出したのかを問うと、担当者も分からない、とのこと。市に自衛隊募集のための適齢者名簿の提出について要望書を出して、懇談を申し入れることを考えている」と、自衛隊員募集の実態と取組を報告しました。

■鹿行平和委員会の風間道夫さんと阿見平和の会の石倉黎子さんからは、「女性が運動に参加すると楽しい雰囲気がつくれる。女性のパワーを大事にしたい」「女性が役員会に出られる条件をつくってほしい。『いっしょに行こうよ』と誘ってくれたり、『お前一人で行って来いよ』など男性の後押しが必要です」と述べ、参加者も頷いていました。

■その他にも、「戦争と平和」パネル展の取組や学習会開催、ニュースの発行、映画「荒野に希望の灯をともし」の上映について、平和関連施設への平和ツアーについてなどがイキイキと報告されました。